

栃木県の水稲に発生したイネカメムシに対する薬剤の殺虫効果（続報）

令和8（2026）年5月

栃木県農業総合研究センター環境技術指導部防除課

1 目的

水稲に発生したイネカメムシに対する薬剤の殺虫効果を明らかにし、防除対策の資料とする。

2 材料

（1）供試虫

令和7（2025）年10月8日に栃木県下都賀郡野木町の水稲から採集した個体群を供試した。

（2）供試薬剤

表1の稲のカメムシ類に登録のある3剤とし、希釈倍率は農薬登録情報に記載のある濃度とした。対照は水道水とした。

3 検定方法

八塚ら（2022）の方法を一部改変して行った（虫体浸漬法）。

令和7（2025）年10月28日、成虫5頭を炭酸ガスで麻酔し、薬剤の希釈液に3秒間浸漬した後、余分な薬液を除去して直径10cm、高さ4cmの円筒型の飼育容器（昆虫飼育用ディッシュ、株式会社三商）に入れ、25°C16L8Dで飼育した。飼育容器には、3cm×3cmの水道水で湿らせたカット綿を直径5cmのプラスチックシャーレに入れたものと、餌として、冷凍稲穂を入れた。検定は、各処理区につき成虫5頭を1反復とし、3反復実施した（計15頭）。

処理24、48、72時間後の生存虫及び死虫を計数し、Abbott（1925）の補正式 [補正死虫率（%） = {（無処理区の生存虫率 - 処理区の生存虫率） / 無処理区の生存虫率} × 100] により補正死虫率を算出した。

容器側面に掴まることができない個体や痙攣して転倒し、自力で起き上がれない苦悶虫も死虫と判定した。

（判定基準）

処理72時間後の補正死虫率 90%以上：高い、70~90%未満：やや高い、50~70%未満：やや低い、50%未満：低い

4 結果（表2）

- ①エチプロール水和剤では、処理48時間後の補正死虫率は100%と殺虫効果が高かった。
- ②クロチアニジン水溶剤では、処理72時間後の補正死虫率は100%と殺虫効果が高かった。
- ③フルピリミン水和剤では、処理72時間後の補正死虫率は20%と殺虫効果が低かった。

5 引用文献

八塚ら（2022）関東東山病害虫研究会報 69：48-51.

Abbott, W. S. (1925) J. Econ. Entomol. : 264-268.

表 1 供試薬剤

供試薬剤名	商品名	IRAC コード	希釈倍数 (倍)	農薬 登録
エチプロール水和剤	キラップフロアブル	2B	1,000	○
クロチアニジン水溶剤	ダントツ水溶剤	4A	4,000	○
フルピリミン水和剤	エミリアフロアブル	4F	1,000	○
(対照) 水道水	-	-	-	-

表 2 イネカメムシ成虫に対する供試薬剤の効果

供試薬剤名	希釈倍数 (倍)	補正死虫率 (%) (死虫数)			判定 (72h 後)
		24h*	48h	72h	
エチプロール水和剤	1,000	93 (14)	100 (15)	100 (15)	効果は高い
クロチアニジン水溶剤	4,000	100 (15)	100 (15)	93 (14)	効果は高い
フルピリミン水和剤	1,000	33 (10)	13 (13)	20 (12)	効果は低い
(対照) 水道水	-	0 (0)	0 (0)	0 (0)	-

※ 処理後時間を示す。